

事業活動実績報告書

施設名	幼保連携型認定こども園葛飾みどり
教育理念	自ら生きる とともに育ちあう
1 事業名	身近ないのち
2 実施期間	令和 7年 4月 1日 ～ 令和 8年 3月31日

3 取組概要	(取組日) 令和7年4月1日 ～ 令和7年5月31日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	いつも園庭の木々をカットしたり、ビオトープの周りを整えたりしている人がいることに子どもたちが気付く。先生たちとは違うので、子どもたちの方から声をかけ、その人を知っていくまで日数がかかった。保育者ではなく子どもたちが興味を持って声を掛けることを大切にしたい。一緒に近くまで行き、何をしているのか知りたい、と申し出てきたため、チャンスとばかりに近くまで行き、何をしているのか声を掛けた。メダカの家を整えている、これから大きくなる赤ちゃんの木にご飯をあげている、など言葉があり、どの木が赤ちゃんなのか？と園庭の木々などに興味を持ち始めた。	
	(取組日) 令和7年6月1日 ～ 令和7年7月31日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	園芸家が園庭の木々や花に水をやっているため、子どもたちも自分たちでも水をあげることはできる、と花や木々を探して、水をあげていた。0歳児クラスの部屋に飾ってある花をさりげなく机に置いておくと、0歳児も自分でゆっくりと水道まで行き、ペットボトルを取ってほしい、と指をさした。ボトルを取ると自分で蛇口を開け、一生懸命水を入れていた。そして決して器用ではないが懸命に花にご飯をあげていた。園芸家への興味が膨らんでいき、だんだんと子どもたちの方から声をかけるようになった。今日は何にご飯をあげているの？という言葉をかけ、園芸家から「すだじいだよ」「レモンの木だよ」「桜の木だよ」など返事をもらうため、園庭にどんな木たちがいるのか子どもたちも理解し始めてきた。ミカンの木にまだ実が無い、いつなるんだ？どんぐりの木に全然どんぐりが付いていない、ブルーベリーが出来たらジャムにして食べたいなど、少しずつ木々は生きているということにつながり始めた。	
(取組日) 令和7年8月1日 ～ 令和7年10月31日		
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	園庭の畑に植えた大根やにんじん。花など、これまでは「結果、うまく育っていたら喜ぶ」というような結果主義であったが、園芸家がくると、いつも木の枝を整えたり、メダカの家を整理したり、水をやっていたりするため、子どもたちは『これからこの大根がどうなっていくかは、園芸家のお世話をするかしらないか』だと感じたようだ。水をあげる回数が多くなりあげすぎは良くないことだが、まずはその意欲をそのままに見守っていった。	

3	取組概要	(取組日) 令和7年11月1日 ~ 令和7年12月26日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 散歩に行った際、園にあるようなピオトープを見つけた。ここに石をいれた子がいて、隣の子がその時に『投げたらダメ』と手をおさえていた。園のピオトープから学んだものだろうか、中には何かいるんだよ、と言わんばかりに一人中を覗き込むとみんな中で覗き込み、そこに何か生きている物がいるかもしれない、と思いを寄せていた。	 
		(取組日) 令和8年1月5日 ~ 令和8年3月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 畑に植えた大根やニンジン収穫する際にも、ただ引っ張って出せばいい、という様子ではなく、少しずつ土を掘りながら見えてきた大根やにんじんの周りについている土をさらに掘っていきながら掘り出していた	
		(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの

効果検証報告書(新規事業用)

施設名	幼保連携型認定こども園葛飾みどり
教育理念	自ら生きる とともに育ちあう

事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)									
	健康	○	人間関係	◎	環境	○	言葉	○	表現	○
1 事業名	新規事業		○		継続事業		1		年目	
	身近ないのち									
2 事業概要	私たちの身近にある『いのち』にふれ、自分たちのいのちも感じる									
3 対象学級(クラス名) 対象人数	花組、雪組、星組						95		名	
計画時 4 実施体制	『身近な命を感じる』保育とともに、草木の育ちを熟知している植栽の専門家と関わる									
事業後 4についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等									
	園芸家が寡黙な方だったため、子どもとのコミュニケーションをどのように進めていこうかまよってしまった。だからといって無理やり会話の機会を作るのは避けたかったため、子どもへのアプローチではなく、保育者同士の保育中の会話の中で園芸家に興味を持ってもらえるような話をして工夫した									
計画時 5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等									
	子どもが目を輝かせるあそびが園庭の中で繰り広げられるような環境が必要である。園庭にある自然はすべてあそびの要素だと考え、身近で手の届くところにある自然(園庭の自然)を豊かにしていく。命を大事だと感じるには、たくさんの木々と関わり、草木のなかから生まれた虫にふれ、たくさん葉を摘みながら、たくさん命に出会い関わっていくことが大切だと考える。 園庭が誕生してまだ1年。まだまだ子どもたちと保育者で園庭を作っている過程にある。子どもたちと保育者で園庭に必要なものは何か？と話し合う中で、サポートしてくれる専門家のところに質問に行きたい、自分たちがいけないのであれば専門家を呼んだらどうか？という考えに至り山本さんと呼ぶこととなった。山本さんと共に、今後自分たちの園庭をつくって行くところである。 ●活動予定(山本さんと一緒に) ・4月5月＝草木の赤ちゃんのことを知ろう(どんな名前の子ちゃんかな)その近くにいる虫を調べよう。 →1人一冊もっている月間絵本の付録である『図鑑』を持ってきて、自分たちでも調べながら知っていく。 ・6月7月＝どれだけ大きくなっているか？観察しよう。(どうなっていたら『育っている』ということなのか？) →各自持っている図鑑を持ってくる。大きさを図る物を持つ。色鉛筆などを使って写生で記録を残しておく。 8月9月＝ご飯をあげよう(夏は人間と同じようにたくさん水を飲む。枯れている赤ちゃんを助けよう)。草むしりがなぜ必要なのか？ 10月11月＝木々から季節を味わう。『冬支度』を知る。 →葉の色の移り変わり、落ち葉など、これまでの様子とは違った木々の姿を知る。 12月1月2月＝冬の寒さの中で生きている木々たちへのサポートは何か？									
事業後 5についての 効果・検証	(継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点									
	事業実績から推測される効果や改善点等									
園庭にある命はスケールが大きすぎて、予定していた進捗にはまだまだ及んでいない。今後も継続していきたい事業で内容である。まだまだ深められる内容である。また、新園舎建て替えを機に、さまざまな木を植えたが、その木々が少し弱っているようである。園庭から季節を感じた1年を過ごしたかったが、枝が折れてしまったり、根っこがだめになってしまい枯れてしまった木もあり、四季折々のイメージは全くなかった。										

計画時	6 事業を通じて期待される子どもたちの姿や効果等	●身近な自然の美しさや不思議さに触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、関心をもつようになる。 ●身近な動植物に愛着をもって関わる中で、生まれてくる命を目の当たりにして感動したり、時には死に接したりし、生命の不思議さや尊さに気付き、大切にすることを覚えるようになる。 ●自然に触れて感動する体験を通じ、好奇心や探究心を持って言葉などで表しながら、科学的な視点や、自然への愛情や畏敬の念などを持つようになる。 ●同じものでも季節により変化するものがあることが分かり、変化に応じて遊びや生活を変えるようになる。 ●自然現象を遊びに取り入れたり、自然の不思議さを色々な方法で確かめたり、身近な自然現象への関心が高まるようになる。 ●生き物と共に遊んだり、世話をしたりする中で、生命の不思議さや尊さに気づき、命あるものとして大切にすることを覚えるようになる。	
	事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 思いもよらず、園庭の木々が弱ってしまい、1年間の園庭の姿、変化を思う存分感じられなかった。園芸家の姿から、自分たちが育てている大根やニンジンについての興味が深まり「育ったニンジンが正解」「大きく育った大根が食べたい」という結果主義から、結果よりもその過程に参加する子どもが増えたように思う。
		7 効果検証総括	取組を通しての感想、今後の教育・保育に向けて まだ継続して園庭の「命」とかかわっていく。園芸家との距離も縮められるよう、子どもたちの前でも保育者と園芸家との会話を増やし、園芸家はどんな人なのかを知る機会を多く持っていく。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません（別紙は任意様式）。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5つの領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。